

NIFEEコース(第3期)  
(年次報告(平成23年度後期・24年度前期) I  
日本語・日本事情教育)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-04-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 袴田, 麻里 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00007674">https://doi.org/10.14945/00007674</a>

## 平成 23 年度 NIFEE コース（第 3 期）

袴田 麻里

### 1. コースの趣旨と目標

工学部での National Interfacing Engineers Education program (NIFEE) 開始に伴い、21 年度後期から開講した。NIFEE は、日本のモノづくり、品質管理・生産管理を学ぶための特別講座が組み立てられており、日本語・日本文化とともに工学分野が勉強できる留学生プログラムである。対象は、タイ、ベトナム、インドネシアの 3 国のみである。

初年次秋学期は導入期間とされており、国際交流センターは、全学教育科目として、初年次秋学期に日本語集中授業（週 10 コマ）を担当した。

### 2. 授業期間

第 3 期：平成 23 年 10 月 11 日～平成 24 年 2 月 13 日

### 3. 受講生

ベトナム・フエ省（2008 年 11 月 18 日締結）との協定による特別選抜留学生 3 名に加え、4 名の一般選抜留学生（ベトナム）の受入れであった。

### 4. 日程と時間割り

〈日程〉	9 月 27 日（月）、28 日（火）	ベトナム来日
	10 月 4 日（火）	プレースメントテスト
	10 月 7 日（金）	ガイダンス
	10 月 11 日（火）	コース開始
	12 月 8 日（木）	中間試験
	2 月 10 日（金）	期末試験
	2 月 13 日（月）	コース修了

〈時間割と担当者〉

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
12：45－ 14：15	文法、語彙 [非常勤]	文法、語彙 [非常勤]	科学系日本語 [非常勤]	文法、語彙 [非常勤]	文法、語彙 [非常勤]
14：25－ 15：55	聴解 [非常勤]	作文 [非常勤]	会話 [国セ専任]	速読 [非常勤]	作文 [非常勤]

### 5. 授業概要

表現したいことを適切に表現できるようになること、文法・語彙と共に学部生としての勉学に必要な漢字習得を学習目標としている。また、大学生活により密着した表現形式を

身につけさせるため、作文教材の改善、会話コマの内容改善を行った。

**語彙・文法** 4コマ/週

使用教材：『文化中級日本語Ⅰ、Ⅱ』（文化外国語専門学校）

目的：①精読を通して、語彙、文法に理解を深める。

②中級から上級レベルの漢字を習得する。

内容：教科書本文を精読後、提出された語彙の確認を行なう。類義語、対義語がある場合には、同時に提示する。どのような場面、文脈、文体で使用するのかを明確に理解できるように、例文を多く用い説明する。また、理解の程度を確認するため、3～4コマに1コマは復習の時間を設ける。漢字テストは1課終了ごとに行なう。

**速読** 1コマ/週

使用教材：新聞、雑誌などから適宜

目的：細かい部分にこだわらず、全体をつかむ読み方ができるようになる。また、日本語の文章構造に慣れ、重要項目、重要段落を探せるようになる。

内容：教材を規定時間内に一読し、キーワードの抽出を行なう。また、文章の構造を把握するために、段落ごとに要約をする。最後に全体の内容の理解度を確認する質問を行なう。

**作文** 2コマ/週

使用教材：自主製作教材

目的：話し言葉と書き言葉の違いを理解し、使い分けられるようになる。日本語の文章表現法を身に付け、まとまりのあるレポート程度の文章が書けるようになる。

内容：例文を通して作文のための表現を学び、練習問題で表現の使い方を理解する。次に1つのテーマについて資料をもとにディスカッションを行ない、その内容を学んだ表現を使いながら作文する。

**聴解** 1コマ/週

使用教材：『文化中級日本語Ⅰ、Ⅱ』（文化外国語専門学校）

『毎日の聞き取り 50日 中級』上、下（凡人社）

『毎日の聞き取り 50日 中級プラス』上、下（凡人社）

目的：細かい部分にこだわらず、全体をつかむ聞き方ができるようになる。また、日本語の発話に慣れ、発音や強調など音声上の特徴から要点を聞き取れるようになる。

内容：語彙・文法で導入された項目を音声を通して再度確認する。適宜、重要語句や表現の提示を行ない、発話練習の準備とする。聞き取りにかかった部分については、その理由について考察する。

## 会 話 1コマ/週

使用教材：『文化中級日本語Ⅰ、Ⅱ』（文化外国語専門学校）

目 的：語彙・文法、速読で得た語彙や表現を口頭で表現できるようになる。

内 容：語彙・文法、速読の教材の内容について、ディスカッションを行なう。また、同じ話題で日本人ボランティア学生ともディスカッションを行ない、対話の形式、質問に対する返答など適切に発話できるよう練習する。

## 科学系日本語 1コマ/週

使用教材：『留学生、研修生のための科学技術日本語』（金沢工業大学）

目 的：工学部では日常的に使用されるが、日本語教材では取り上げられない語彙、表現を身に付ける。

内 容：1コマ1課で「手を使う」など項目ごとに動詞、また状態を表す副詞の導入、練習を行なう。受講生の母国語に対応する語が必ずしもあるとは限らないため、できるだけ実物や動作を使い、具体的な理解を促す。課ごとに理解を確認するテストを行なう。

## 6. 学内での連携

来日時の日本語能力が学部入学レベルではないこと、年齢が低く精神的に不安定であることを考慮して、工学部との連携を強化した。特に各学生のチューターは、勉学の支援だけでなく生活面の支援も行おうであろうことが予想された。そのため、事前に国際交流センター教員が面談を行い、ベトナム人学生特有の問題点などについて、簡単なガイダンスを行った。

工学部の正規生として在籍しているため、指導教員と NIFEE 授業担当教員へプレイスメントテストの結果を送付し、学生の日本語力把握を促した。また、中間試験、期末試験結果は、履修状況とともに指導教員と NIFEE 授業担当教員へ送付し、相互に連絡を取り合いながら、半年間の指導にあたった。

コースでは、留学生支援ボランティアや学外者をゲストに招き、学んだことを使い、同時に多様な日本語に触れる機会を作るよう心がけた。

コース以外にも日本人や日本文化への理解を深めるため、浜松市民のグループからの申し出を受け、月に一度交流する機会を作った。

## 日本語教育プログラム

案野 香子／袴田 麻里

### 1. コースの概要

日本語教育プログラムは静岡大学で勉強するすべての留学生のための15週間の日本語コースである。学習内容には、日常的コミュニケーションのほか、研究活動に必要な口頭発表やレポート執筆の技能なども含まれている。日本語を初めて勉強する人の入門科目（日本